

「四季・植物」 24 蓬

学名 Artemisia

キク科ヨモギ属の総称

名前の由来については様々な説がありはっきりしない。

郷土資料から見た「蓬」のあれこれ

県内では端午の節句の頃に作られることの多い笹だんごだが、柏崎では閻魔市の頃に作るのが慣例となっている。生地にヤマゴボウの葉を入れる地域もあるが、多くは蓬の柔らかい若芽の部分の茹で干しを混ぜて笹だんごにする。蓬の若葉は、餅に混ぜて草餅や草だんごにして楽しめることも多く、「モチグサ」の別名でも親しまれている。

葉を乾燥させたものは漢方で「艾葉」と呼ばれ、煎じ薬や入浴剤として用いられる。民間療法では「切り傷の血止めや消毒に葉をもんでつける。また、虫下しに煎じて飲むとよい」（「柏崎市史資料集民俗篇」）とされる。灸に使うモグサは蓬の葉の綿毛を集めたものである。

古くから邪気を払うとされ、端午の節句ではショウブと共に各種行事に使われており、「山野草のなかで、ヨモギほど生活に馴染み深い草はないだろう」（「草木花歳時記」）とあるが、まさにそのとおりである。

参考資料

「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「柏崎歳時記」	山田良平著	1976
「草木花歳時記 冬」	朝日新聞社発行	1999	「図説 花と樹の大辞典」	植物文化研究会・雅麗篇	1996